

AmazonConnectによる自動電話通知（7.複数連絡先への電話通知〈構築⑦〉）

AWS



×

ZABBIX

×



AmazonConnectによる自動電話通知 （7.複数連絡先への電話通知〈構築⑦〉）

2021.11.12 2021.11.05

[【前回】 AmazonConnectによる自動電話通知（7.複数連絡先への電話通知〈構築⑥〉）](#)[【次回】 AmazonConnectによる自動電話通知（7.複数連絡先への電話通知〈構築⑧〉）](#)[【簡易版】 AmazonConnectによる自動電話通知（まとめ）](#)

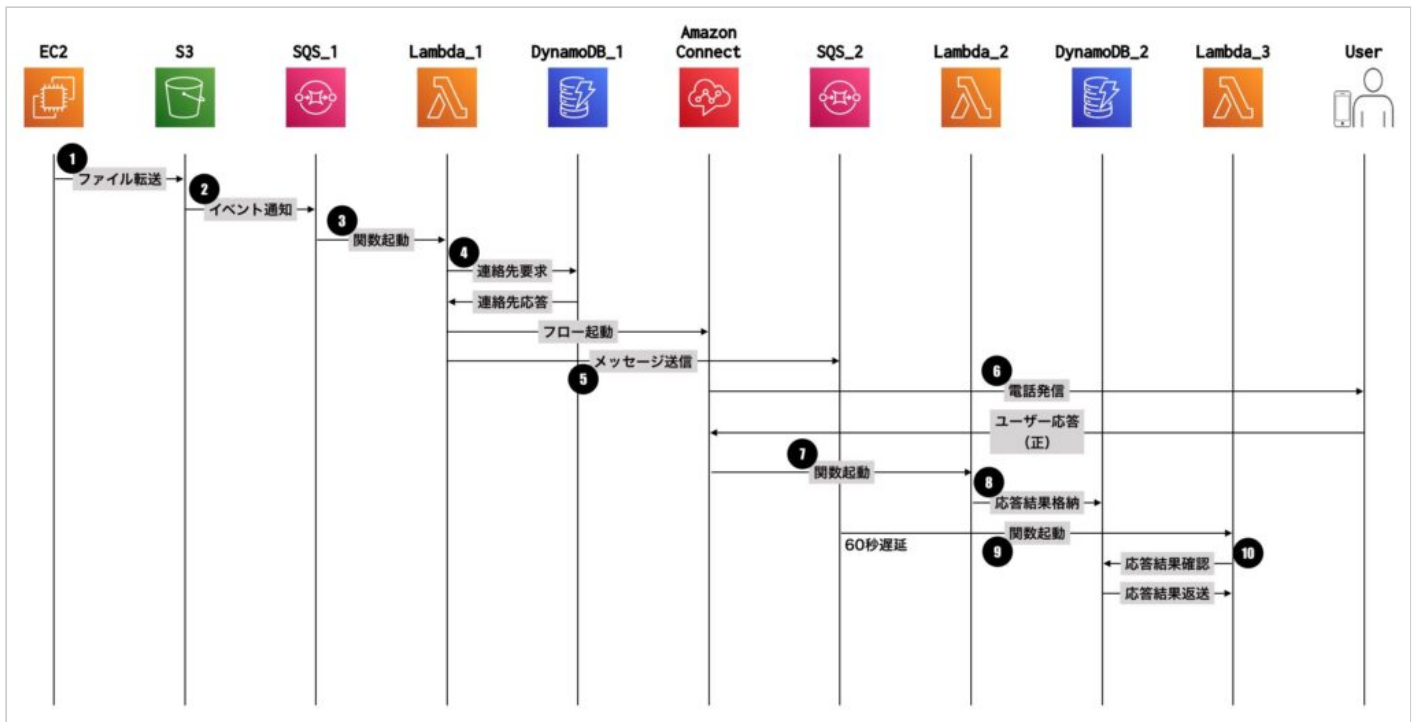
監視サーバーで障害を検知した際に、自動で電話通知できるようにしていきます。ネットワークエンジニアも利用することの多い監視サーバー(Zabbix)で障害検知し、AWS上のAmazonConnectを利用し自動電話を発信します。

今回は下記の条件を満たせるようにAWSの各サービスを利用して自動電話通知の仕組みを導入します。

- 複数の通知先を登録した連絡先リストを持たせる。
- 連絡先リストに優先度(通知順)を設定する。
- 優先度が高い人に最初に電話する。
- 応答が無かった場合、次の優先度の人に順番に電話する。
- 連絡先リストの最後まで電話しても応答が無かった場合、最初に戻って継続する。

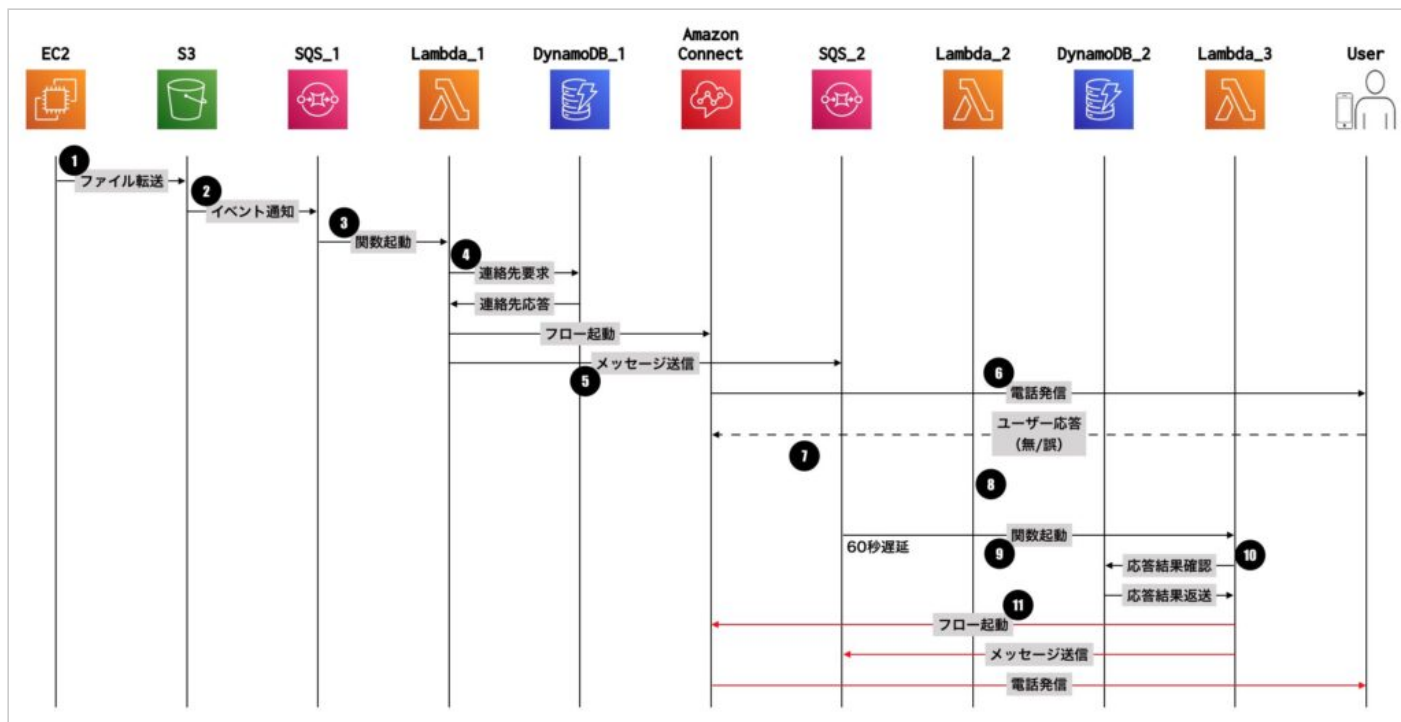
自動電話通知フロー

電話に応答した場合のフロー



1. EC2上の監視サーバーで障害を検知し、S3へトリガーファイルを格納
2. S3のイベント通知機能で、SQS_1にメッセージを送信
3. SQS_1をトリガーとして、Lambda_1を起動
4. Lambda_1がDynamoDB_1から連絡先を取得し、AmazonConnectを起動
5. Lambda_1がAmazonConnectを起動すると同時に、SQS_2へメッセージを送信
6. AmazonConnectがユーザーへ自動電話通知を実施
7. ユーザーが正常応答し、AmazonConnectがLambda_2を起動
8. Lambda_2が応答結果をDynamoDB_2に保存(応答OK)
9. 60秒後にSQS_2をトリガーとしてLambda_3を起動
10. Lambda_3がDynamoDB_2の応答結果を確認(正常応答しているため、何もせずに処理完了)

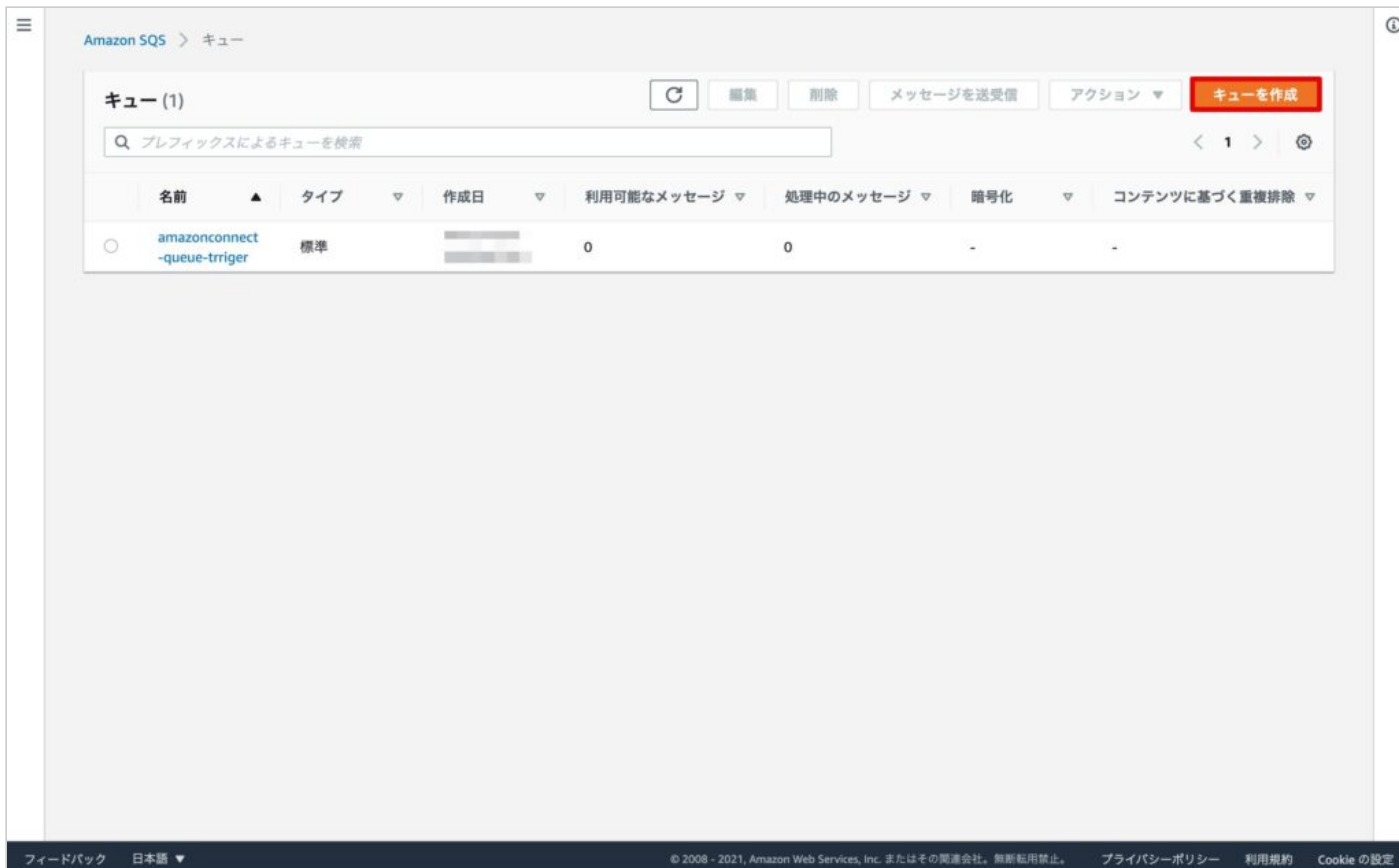
電話に応答しなかった場合のフロー



1. EC2上の監視サーバーで障害を検知し、S3へトリガーファイルを格納
2. S3のイベント通知機能で、SQS_1にメッセージを送信
3. SQS_1をトリガーとして、Lambda_1を起動
4. Lambda_1がDynamoDB_1から連絡先を取得し、AmazonConnectを起動
5. Lambda_1がAmazonConnectを起動すると同時に、SQS_2へメッセージを送信
6. AmazonConnectがユーザーへ自動電話通知を実施
7. ユーザーが正常応答せず、AmazonConnectがLambda_2を起動
8. Lambda_2が応答結果をDynamoDB_2に保存(応答NG)
9. 60秒後にSQS_2をトリガーとしてLambda_3を起動
10. Lambda_3がDynamoDB_2の応答結果を確認
11. 正常応答していないため、再度AmazonConnectを起動(以降、5から繰り返し)

SQS_2を作成(Lambda_3を起動するキュー)

SQSの「キューを作成」をクリックします。



下記の通り選択・入力し、「キューを作成」をクリックします。

タイプ：「標準」を選択

名前：任意の名前を入力 ※ここでは、“amazonconnect-queue-confirm”としています。

設定：配信遅延を「1分」に設定



設定

最大メッセージサイズ、他のコンシューマーに対する可視性、およびメッセージの保持期間を設定します。 [情報](#)

可視性タイムアウト [情報](#)

秒

0 秒～12 時間の間である必要があります。

配信遅延 [情報](#)

分

0 秒～15 分の間である必要があります。

メッセージ受信待機時間 [情報](#)

秒

0～20 秒の間である必要があります。

メッセージ保持期間 [情報](#)

日

1 分～14 日の間である必要があります。

最大メッセージサイズ [情報](#)

KB

1 KB～256 KB の間である必要があります。

アクセスポリシー

キューにアクセスできるユーザーを定義します。 [情報](#)

メソッドを選択

☒

ベーシック

シンプルな基準を使用して、基本的なアクセスポリシーを定義します。

☐

アドバンスド

JSON オブジェクトを使用して、高度なアクセスポリシーを定義します。

キューにメッセージを送信できるユーザーを定義

☒

キュー所有者のみ

キューの所有者のみがキューにメッセージを送信できます。

☐

指定された AWS アカウント、IAM ユーザー、ロールのみ

指定された AWS アカウント ID、IAM ユーザー、ロールのみがキューにメッセージを送信できます。

キューからメッセージを受信できるユーザーを定義

☒

キュー所有者のみ

キューの所有者のみが、キューからメッセージを受信できます。

☐

指定された AWS アカウント、IAM ユーザー、ロールのみ

指定された AWS アカウント ID、IAM ユーザー、ロールのみが、キューからメッセージを受信できます。

JSON (読み取り専用)

```
{
  "Version": "2008-10-17",
  "Id": "__default_policy_ID",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "__owner_statement",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "*"
      },
      "Action": [
        "SQS:*"
      ],
      "Resource": "arn:aws:sqs:ap-northeast-1:XXXXXXXXXX:amazonconnect-queue-confirm"
    }
  ]
}
```

▶ 許可ポリシーの再実行 - オプション

このキューをデッドレターキューとして使用できるソースキューを特定する。 [情報](#)

▶ 暗号化 - オプション

Amazon SQS では、デフォルトで転送時の暗号化が提供されます。キューに保管時の暗号化を追加するには、サーバー側の暗号化を有効にします。 [情報](#)

▶ デッドレターキュー - オプション

配信不能メッセージをデッドレターキューに送信します。 [情報](#)

▶ タグ - オプション

タグは、AWS リソースに割り当てられたラベルです。タグを使用して、リソースを検索およびフィルタリングしたり、AWS コストを追跡したりできます。

[詳細はこちら](#) [🔗](#)

[キャンセル](#)[キューを作成](#)

DynamoDB_1へ連絡先を追加

連絡先を登録したDynamoDBの「項目の作成」をクリックします。

The screenshot shows the Amazon DynamoDB console interface. On the left, the 'DynamoDB' sidebar is visible with options like 'ダッシュボード', 'テーブル', '項目 新規', ' PartiQL エディタ', 'バックアップ', 'S3 へのエクスポート', and 'リザーブドキャパシティ'. The main area is titled '項目 Info' and shows a list of tables under 'テーブル (2)'. The table 'amazonconnect-contact-list' is selected and highlighted with a red box. To the right, the 'amazonconnect-contact-list' table details are shown, including a search bar and a table of items. The '項目の作成' (Create Item) button is highlighted with a red box. The table of items shows one item with 'No' 1, 'Name' 'User1', 'Phone' '+81...', and 'Priority' 1.

以下の通り入力し、「項目の作成」をクリックします。

No : "2"を入力

Name : "User2(任意の名前)"を入力

Phone : 電話番号を入力 ※新しい属性を文字列で追加

Priority : "2 (連絡順)"を入力 ※新しい属性を数値で追加

DynamoDB > 項目: amazonconnect-contact-list > 項目エディタ

項目の作成

フォーム JSON

属性名	値	タイプ
No - パーティションキー	2	数値
Name - ソートキー	User2	文字列
Phone	+81	文字列
Priority	2	数値

新しい属性の追加 ▼

キャンセル 項目の作成

連絡先が追加されたことを確認します。

DynamoDB > 項目

項目 Info

自動プレビュー

テーブル (2)

タグ

任意のテーブルタグ ▼

名前でのテーブルの検索

amazonconnect-contact-list

amazonconnect-response-status

amazonconnect-contact-list

展開して項目をクエリまたはスキャンします。

テーブルの詳細の表示

返された項目 (2)

アクション ▼ 項目の作成

項目の検索

	No	Name	Phone	Priority
<input type="checkbox"/>	1	User1	+81	1
<input type="checkbox"/>	2	User2	+81	2

以上で、AmazonConnectによる自動電話通知（7.複数連絡先への電話通知〈構築⑦〉）の説明は完了です！

